

3 宇部市の資源・産業にはどのような特色があるだろうか

(1) 第1次産業

① 農業

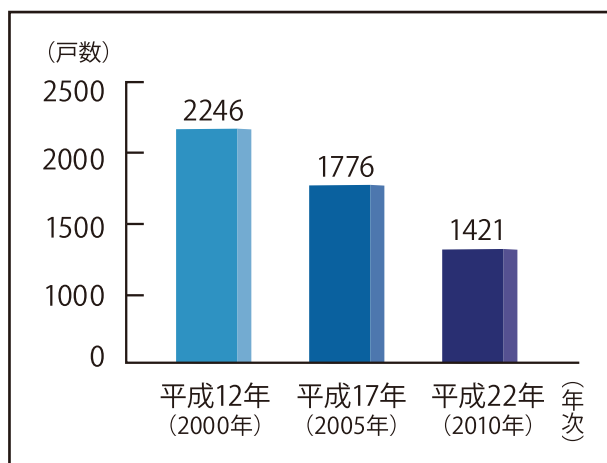
ここでは、宇部市内の農業の現状や、おもな農産物、農業振興への取組に着目して、宇部市の農業の特色を調べていきましょう。

【宇部市の農業の現状】

まずは、右のグラフに注目してみましょう。
宇部市の農家数が年々減少していることがわかります。

また2010（平成22）年の宇部市の農業就業人口は1973人で、そのうち65歳以上の人口は1482人です（「数字で見る宇部市の農業」より）。このことから現在、宇部市では農業人口の減少や高齢化が進んでいることがわかります。

【販売農家数の推移】



「宇部市統計書(平成27年刊)」をもとに作成

【おもな農産物】

○小野茶

みなさんは、宇部市でどのような農産物が栽培されているか思い浮かべることができるでしょうか。代表的なものとして、小野・万倉地区で栽培されている茶が有名です。茶は江戸時代から一部では栽培されていた記録がありますが、戦前までは畑の周囲や土手、山林の一部で行われる程度でした。戦後、1950（昭和25）年に厚東川ダムが完成し、今まであった水田100haが水没したことを契機に、茶の栽培が本格的に始められました。

2008（平成20）年で栽培面積は70ha、生産量は生茶で739t、荒茶で163tの実績があり、「山口茶」として出荷されるお茶の約9割がこの小野地区の茶園で生産されています。また、クッキーやケーキにしたり、石鹸の原料に入れたりするなど、加工品として付加価値をつけて販売されています。

◎小野茶



◎小野の茶畑



○ブランド化された農産物

宇部市では、小野茶以外にも地元でブランド化された農産物があります。西岐波キャベツ出荷組合が生産しているキャベツ「ソフトろまん」です。西岐波・東岐波一帯は戦前はダイコンの一大産地でした。しかし戦後、需要が縮小しキャベツ栽培に転換しました。1973（昭和48）年からは冬キャベツ栽培の国の指定産地になっています。「ソフトろまん」のブランド化は2010（平成22）年に、同組合が創立50周年を迎えたのがきっかけです。現在では、学校給食の食材として使われたり、スーパーや農産物直売所で販売されています。

◎ソフトろまん



「万倉なす」も地元でブランド化された農産物です。「万倉なす」は、旧楠町で各農家が個別に栽培していたのを、大市場に共同出荷するために、1954（昭和29）年に組合を結成したのが始まりです。現在、万倉なす共同出荷組合では90haの畑で栽培に取り組んでいます。「万倉なす」は、スーパーなどで販売されているだけでなく、学校給食の食材としても使用されています。また、なすのからし漬けのように、加工品としても販売されています。

◎万倉なす



【農業振興への取組】

宇部市では現在、「小野茶」や「ソフトろまん」、「万倉なす」に代表されるようなブランド化された農産物があるにもかかわらず、高齢化や後継者不足が問題となっています。



◎楠こもればの郷



◎万農塾

特に「万倉なす」は、最盛期には70人いた生産者が、2011（平成23）年ではわずか8人に減少しています。

宇部市では、農業振興の取組の一つとして、2003（平成15）年に策定された「農業振興ビジョン基本計画」に基づき、2009（平成21）年に「楠こもればの郷」がつけられました。

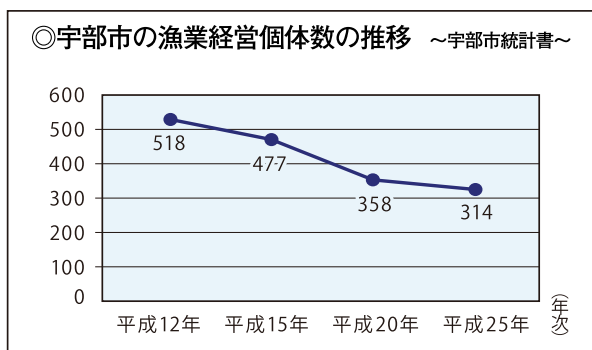
現在「楠こもればの郷」は、温泉、農産物直売所、レストラン、農業研修交流施設の4つからなり、農林業の振興と地域の活性化、都市と農村の交流などを推進する拠点となっています。特に、農業研修交流施設「万農塾」では、新しく農業に取り組みたい就農希望者への研修支援や、都市部に住居を構え、休日を利用し農業体験をしたいという人々に農業交流の場を提供しています。

② 水産業

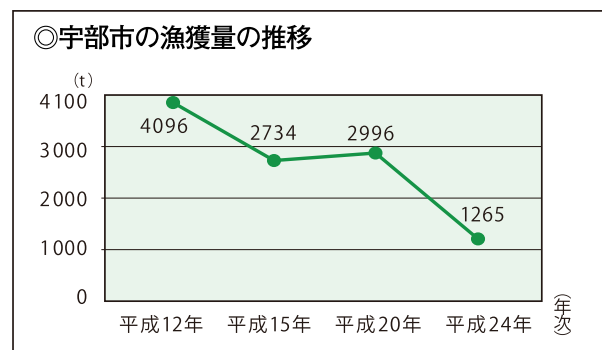
ここでは、宇部市内の水産業の現状や、おもな水産物、水産加工品、漁業振興への取組に着目して、宇部市の水産業の特色を調べていきましょう。

【宇部市の水産業の現状】

まずは、次のデータに着目してみましょう。宇部市の漁業経営个体数や漁獲量は年々減少していることが分かります。経営个体数は1999（平成12）年から2013（平成25）年までの13年間で204tも減少しており、漁獲量も1999（平成12）年には4000t以上ありましたが、2012（平成24）年には1265tと落ち込んでいます。



「宇部市統計書」をもとに作成



「宇部市統計書」をもとに作成

【おもな水産物・水産加工品】

○のり

宇部市はのりの養殖がさかんです。宇部岬は県内生産量の9割以上のシェアを占めています。漁獲量が少なくなる冬場の取組として、約45年前に有明ののり養殖を参考に始まりました。宇部岬は半島の突き出した部分にあり、関門海域からの栄養塩がよく流れ込むため、栄養を吸収した良質の板のりとして高評価を得ています。



宇部岬以外では、厚東川下流でものり養殖が行われています。こちら川がもたらす山の栄養を吸収した良質ののりです。

○車えび

車えびの養殖は1966（昭和41）年に宇部沖の漁獲量減少を補うために、車えびの養殖の環境条件に適している丸尾（東岐波）に養殖場をつくり、本格的に取り組むようになった。養殖池で育てられた車えびは、贈答用として県内はもとより、全国各地に出荷されています。



○ブランド化された水産物

現在、宇部市では宇部産の一次産品を活用した加工品を「うべ元気ブランド製品」として売り出しています。水産加工品では鱧（はも）、れんちょう、子エビ、ガザミなどを使った商品が「うべ元気ブランド」となっています。

山口県で水揚げされた鱧は「西京はも」と呼ばれています。西京はもは、市内水産物加工会社で練り製品にして売り出されています。※西京はも = 山口県漁協の登録商標

れんちょうとは、瀬戸内海沿岸で取れるアカシタビラメです。その中で体長6～7センチサイズの小ぶりものは商品価値が低く捨てられていました。これらの商品化に向けて新宇部漁協の女性部有志が加工品開発を行い「瀬戸内れんちょう」が誕生しました。

瀬戸内海は小エビの宝庫です。底引き網漁業で水揚げされた小エビをすぐに調理し、作られたものを「きららえび」としてブランド商品化されています。平成13（2001）年の山口きらら博に向けて開発したので「きららえび」と命名されました。

ガザミ（通称ワタリガニ）は瀬戸内海各地で水揚げされ、宇部沖は山口県最大の漁獲量を誇っています。そこで1997（平成9）年に宇部観光コンベンション協会が中心となり「月待ちがに」の名で地元PRに向けブランド化しました。2004（平成16）年にガザミを材料に仕上げた「月待ちがにせんべい」を売り出し、2011（平成23）年には「おごっそ蟹せんべい」にリニューアルしました。自然の恵みを「おごそか」に受ける、「おごちそう」の言葉がネーミングの由来です。

◎は も



◎吟撰鱧の竹輪

◎れんちょう



◎瀬戸内れんちょう

◎小エビ



◎きららえび

◎ガザミ



◎おごっそ蟹せんべい



漁業従事者数の減少及び高齢化は全国的な問題となっています。担い手を確保するため、国、県、市及び漁業協同組合並びに山口漁業就業者確保育成センターが連携し、漁業就業希望者の受け入れから、研修、定着までを一貫して取り組んでいます。

また2016（平成28）年4月に宇部市の水産業の活性化、地方創生を目的に宇部岬に水産物直売施設がつくられた。施設には売り場、食堂、加工場などが備えられ、地元産の魚介類をPRする場となっています。



(2) 第2次産業

① 工業

宇部市の工業の発展は、明治時代に渡辺祐策が興した沖ノ山炭鉱（宇部興産の前身）から始まりました。その後セメントや化学製品のような基礎素材型産業を中心に栄えてきました。

山口県の瀬戸内海側は瀬戸内工業地域に属し、多くの工業都市があります。それぞれの都市の製造品出荷額の内訳を比べてみましょう。それぞれの都市で大企業が進出し、生産活動を行っています。宇部市は宇部興産を中心とした化学工業の分野が大きな比率を占めているのがわかります。

◎山口県の市町村別製造品出荷額の地図 2013（平成25）年



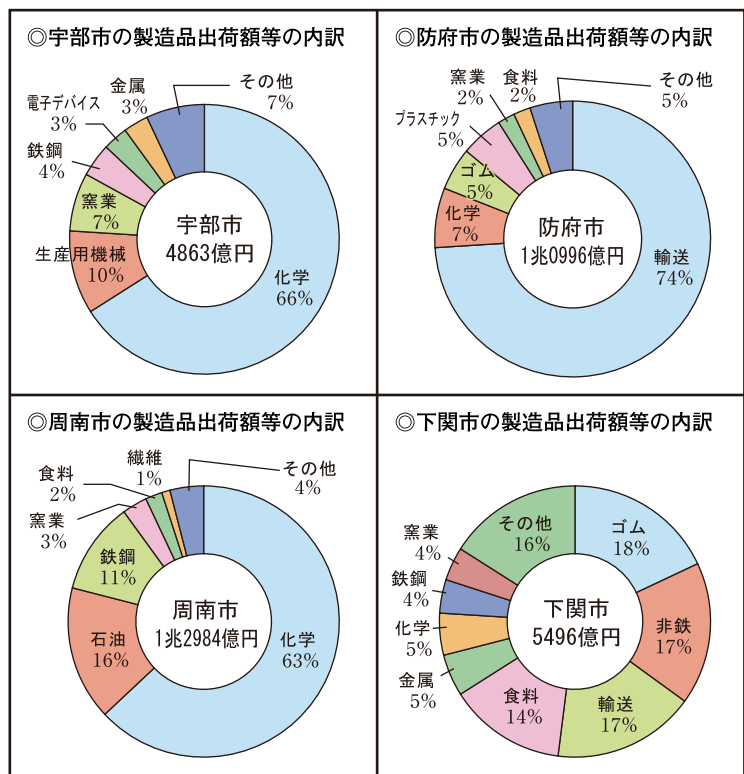
○宇部市の工業の今後

現在は情報化が進み、さまざまな企業がホームページを作成し、製品の紹介や企業のPRを行っています。

また、近年は多くの企業が研究開発費をかけて新しい製品や技術の開発に取り組んでいます。

宇部興産のUBE-i-Plazaでは、企業の歴史とあわせ、それらの製品や技術が紹介されています。

独自の商品や技術開発は日本のみならず世界を相手に競争していく中で今後ますます求められていくことでしょう。



○宇部市の取組

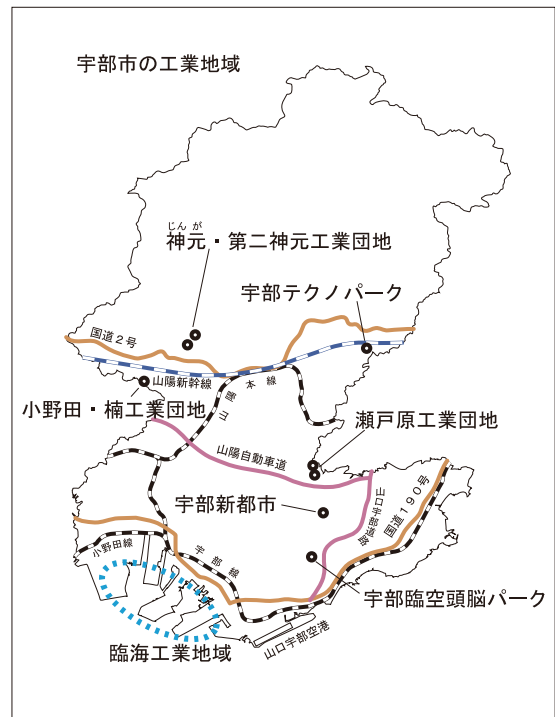
宇部市では、山口県とともに、優れた立地条件を生かした企業進出のサポート体制をとっています。

優れた立地条件とは、

- ①地震などの自然災害が少ない。
- ②優れた交通インフラ。
- ③東アジアとの交流の窓口の位置。
- ④教育研究機関、産業支援機関の集積地。
- ⑤産業団地の整備と企業誘致奨励措置。

などが挙げられます。

また、2010（平成22）年度からは、「宇部市イノベーション大賞」を創設し、革新的な事業を実施しようとする企業を応援しています。



宇部市の産業団地と交通網

コラム カニカマ製造機で世界市場を制覇

みなさんは、「株式会社ヤナギヤ」を知っていますか。2006（平成18）年に経済産業省中小企業庁から「元気なモノ作り中小企業300社」に選定され、2014（平成26）年には、経済産業省から「グローバルニッチトップ100選」に選ばれた宇部市の企業です。

宇部市は昔からかまぼこの生産が盛んで、ヤナギヤの創業者である柳屋元助も今から100年前に柳屋蒲鉾店を開業しました。

その後、ヤナギヤは、かまぼこを作る機械メーカーに転じました。1979（昭和54）年には、カニカマ製造装置を開発し、世界中でカニカマが生産されるようになりました。

日本で開発されたカニカマは、現在、韓国やアメリカ、ロシアなど世界の様々な地域で食されるようになりました。また、製造機の輸出も盛んになり、現在では、国内・海外あわせて世界の約70%のシェアを占めています。

現在の三代目社長は、「モノづくり企業として、オンリーワン技術を発展させることで、揺るぎないブランド力をもったグローバル企業に育てたい」と、これからも新たな技術の開発に意欲をもっています。



カニカマ製造機



カニカマ

(3) 第3次産業

① 商業

ここでは、宇部市内の商業の現状や商店街振興への取組に着目しながら、宇部市の商業の特色を調べていきましょう。

【宇部市中心商店街の現状】

みなさんが、普段、買い物や遊びに行く場所はどのような場所でしょうか。次の2枚の写真を見てみましょう。



◎1980年代の銀天街



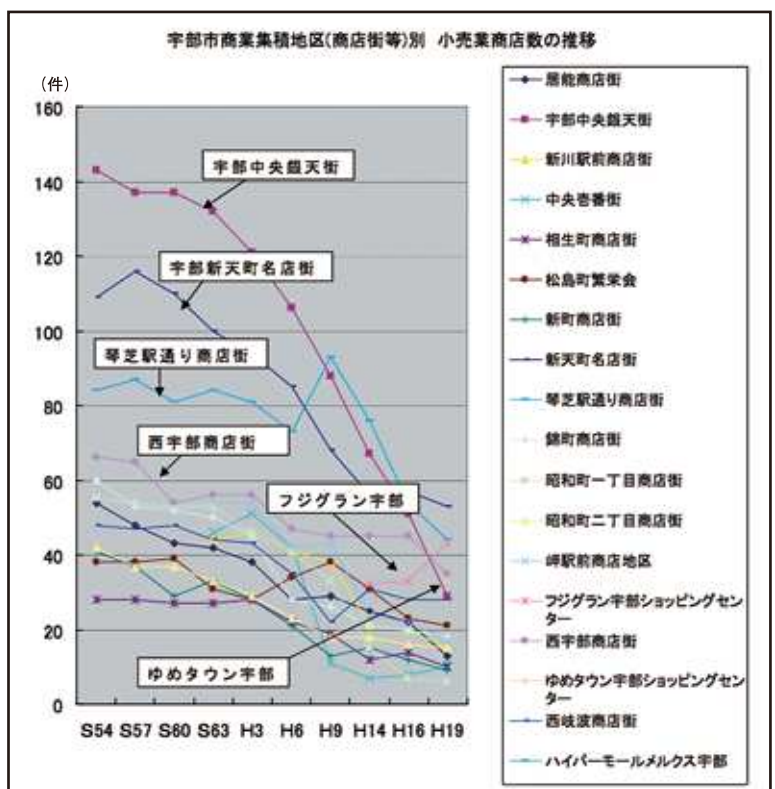
◎現在の銀天街

上の写真は、今から約30年前の銀天街と、現在の銀天街の様子です。現在より人通りが多いことがわかります。

次のグラフは、宇部市の中心商店街と大型ショッピングセンターの店舗数を示したものです。このデータからも、最盛期は約140の店舗があった中央銀天街ですが、2007（平成19）年では約30に減少しています。他の商店街も同様に店舗数を減らしています。なぜ、商店街の店が少なくなったのでしょうか。

【商店街振興の取組】

宇部市は、市街地の空洞化対策として、活性化のための様々な対策を行っています。商店街の空き店舗に出店しようとする人々に、上限500万円まで補助をする「中心市街地空き店舗対策事業費補助金」もその一つです。また、イベント等を実施する商店街を支援するために、補助金を交付する「賑わい創出イベント事業費補助金」は、市民の憩いの場や賑わいの場づくりを行い、元気な商店街づくりをめざすことを目的としています。

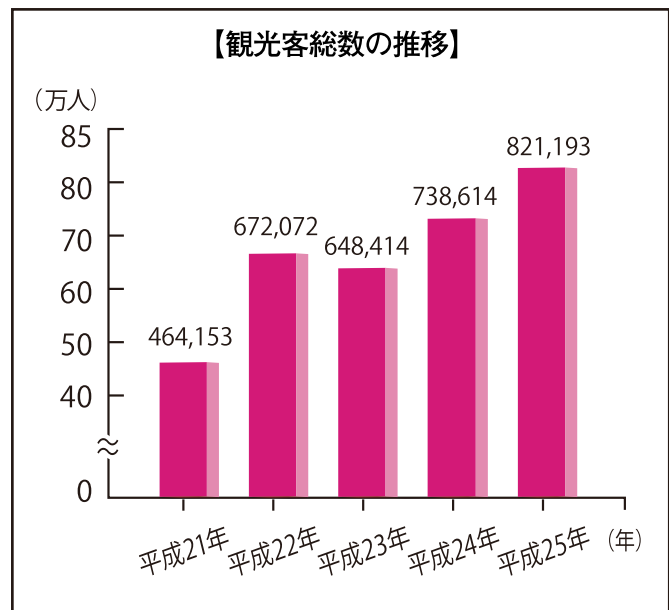


平成24年「宇部の商業2」から

② 観光業

宇部市は、近年観光客の勧誘にも力を入れています。右の表にもあるように、宇部市を訪れた観光客数や宿泊客数は増加傾向にあります。

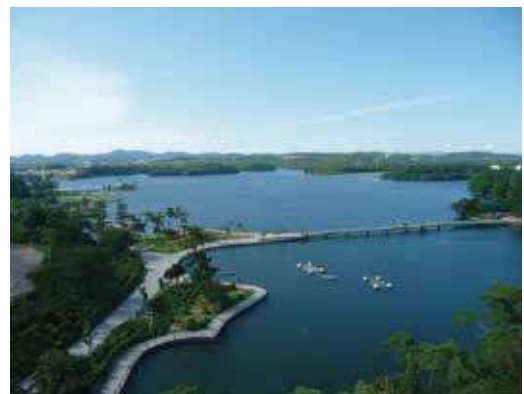
観光ポイントの一つとして、ときわ公園をメイン会場として、2年に一度開催される「UBEビエンナーレ」や、2016（平成28）年3月19日にグランドオープンしたときわ動物園などがあります。ここでは、宇部市のおもな観光ポイントや観光業の取組を見ていきましょう。



「宇部市統計書(平成26年度刊)」をもとに作成

【ときわ公園】

ときわ公園は面積約100haにおよぶ常盤湖を中心に広がる総合公園です。広大な園内は四季折々の自然美に彩られ「日本の都市公園100選」や「さくら名所100選」・「美しい日本の歩きたくなるみち500選」、しょうぶ苑が「池坊花道遥100選」にも選ばれているほか、NHKが募集した「21世紀に残したい日本の風景」で、総合公園としては全国で第1位にランキングされました。ここでは、ときわ公園内のおもな施設について、見ていきましょう。



○ときわ動物園

ときわ動物園の前身は、現在の勤労青少年会館の場所にあった宮大路動物園です。この動物園は、1955（昭和30）年県下初の市民手作りの動物園として開園しました。ここにあった動物舎が、1962（昭和37）年から3年かけて現在のときわ公園に移転しました。しかし、コンクリート製の「ときわ丸」などの施設の老朽化にともない、改修が行われ、2016（平成28）年3月19日、新しくなった「ときわ動物園」がグランドオープンとなりました。



ときわ動物園は、「アジアの森林ゾーン」や「中南米の水辺ゾーン」などで野生動物の生息環境を再現し、本来の行動を発揮させる生息環境展示が特徴です。また、体験学習館「モンスター」では体験を通して、動物や環境について学ぶことができます。

○花いっぱい運動記念ガーデン

1958（昭和33）年、「花いっぱい運動」から始まった花壇コンクールが、2011（平成23）年秋に100回を迎えたことを記念し、ときわ公園に「花いっぱい運動記念ガーデン」がオープンしました。市民みんながつくり、みんなで育てるガーデンをコンセプトとしたバラ、ハーブなど約250種7000本の植物が楽しめる空間です。また、花いっぱい運動の発信基地として、市民ボランティアの参加による花植えイベントの実施や「宇部花いっぱいガーデナーズクラブ」による日常的な維持管理など、市民参加をメインとしたガーデンづくりが進められています。



【UBEビエンナーレ・まちじゅうアートフェスタ】

我々が暮らす宇部市は、緑と花と彫刻のまちとして知られています。戦後の復興期、まちの美化と心の潤いを目指す「緑化運動」「花いっぱい運動」が展開される中で、自然と人間との接点としてまちに彫刻を置こうという「宇部を彫刻で飾る運動」が市民運動として広がりました。これを受けて、1961（昭和36）年に大規模な彫刻展「宇部市野外彫刻展」が開催されました。以来、名称を変えながらも2年に一度のビエンナーレ方式により開催を続け、2011（平成23）年に50周年を迎えました。21世紀に入ってからは、国際展形式を取り入れ、海外作品も積極的に募集しています。

現在、UBEビエンナーレは、日本最大級の野外彫刻の国際コンクールとして展開しており、宇部市所蔵の野外彫刻作品は、国内屈指のコレクションとしてますます充実しています。また、2015（平成27）年の第26回UBEビエンナーレにあわせ、「第26回UBEビエンナーレ×まちじゅうアートフェスタ2015」が開催されました。同時期に市内で繰り広げられる多彩なアートイベントに「食」の要素も加えた新イベントです。会場はときわ公園だけでなく、宇部市の中心市街地周辺や船木・万倉・吉部地区で市民参加型のアートイベントが行われました。



◎UBEビエンナーレポスター



◎まちじゅうアートフェスタポスター



【近代化産業遺産】

近代化産業遺産とは、経済産業省が認定している日本の産業の近代化に貢献した文化遺産のことです。宇部市では、次の6つが認定されています。

○石炭記念館の所蔵物



○渡辺翁記念会館



○旧宇部銀行館 (ヒストリア宇部)



○沖ノ山電車竖坑石垣



○沖ノ山用水の桃山一号配水池
監視廊入り口と桃山配水計量室(六角堂)



○常盤用水・常盤工業用水の
放水・受水関連施設



こうした近代化産業遺産は、遠方から訪れる観光客の方だけでなく、地域に暮らす私たちの学びにも役立ちます。

宇部・美祢・山陽小野田産業観光推進協議会では、「大人の社会派ツアー」と称した産業観光バスツアーを実施しています。

◎大人の社会派ツアーリーフレット (平成28年度版)



(4) 6次産業とは？

6次産業とは、農林水産業の生産（第1次産業）、食品加工（第2次産業）、流通販売・情報サービス（第3次産業）の一体化を推進して、地域に新たな食農ビジネスを創出しようとする取組のことをいい、全国各地の地方公共団体が6次産業化の取組を進めています。

宇部市は、工業都市として発展しましたが、一方では、豊かな自然にあふれ山と海の幸にも恵まれています。この特性を生かし、市内でとれた1次産品を使用した加工品で、宇部市が認証したものを「うべ元気ブランド」と言い、多くの製品が認証されています。「うべ元気ブランド」はまさに6次産業化の典型例です。2015（平成27）年、「うべ元気ブランド」の製品の中から、特に地域ブランドとして優れた製品である「うべ元気ブランド・ゴールド」に認証された日本酒「貴」を例にあげて、6次産業化の取組を見てみましょう。

